社会工学研究科

	年次	定員	志願者		受験者		合格者	入学者	
学生の確保（人）			学内	学外	学内	学外		学内	学外
	1年次	－ ※ － （ －）	－ ※ － （ －）	－ ※ － （ －）	－ ※ － （ －）	－ ※ － （ －）	－ ※ － （ －）	－ ※ － （ －）	－ ※ － （ －）
			学内	学外	学内	学外		学内	学外
	3年次編入学	－ ※ － （ －）	－ ※ － （ －）	－ ※ － （ －）	－ ※ － （ －）	－ ※ － （ －）	－ ※ － （ －）	－ ※ － （ －）	－ ※ － （ －）

	博士課程修了		論文博士	博士課程修士
学位授与数（人）	修了年次定員	修了者数	授与数	授与数
	22（22）	10（17）	－（－）	1（－）

	論文・著書発表数	学会発表数	受賞・表彰等
学生の研究活動（件）	36（24）	8（28）	－（1）

		教員	企業	公務員	研究員（学術振興会）	その他
学生の進路（人）	修了者	－ （2）	1 （1）	－ （2）	6 （3）	3 （9）
	退学者	1 （1）	2 （3）	－ （－）	－ （－）	2 （3）

・「学位授与数」の欄の「博士課程修士」は，中間評価の合格者数を示す。
・（　）は前年度の数値を，※は外国人留学生を内数で示す。

1　社会工学研究科の活動

今年度は10件の博士と１件の修士の学位を授与した。本研究科を閉じるために在籍学生の転研究科措置を実施し，32名の学生の転研究科願いを受理し，修了生と退学生を除いた22名が平成16年度よりシステム情報工学研究科の社会システム工学専攻と計量ファイナンス・マネジメント専攻に移籍することとなる。教育では，学生の学位取得を促すべく，学位論文執筆の初期段階で指導教官以外の研究科教員の意見を求めるために平成13年度から始めた４年次演習を継続した。また，在学生を対象に教官との懇談会を設け，論文執筆についてのガイダンス，生活上の問題の聴取などを行った。新旧両研究科並存に起因する煩瑣な作業と会議を避けるため従来研究科教員会議の審議に委ねていたいくつかの事項を本研究科運営委員会に付託することによって対処した。

2　教員の教育業績評価の状況

本研究科教員の所属する学系では，研究業績と並んで学位授与数などの教育業績も人事評価の対象となっている。そのため研究科では独自の教育業績評価システムを作っていない。ただし，指導学生の学位取得数は，教員の指導力と学生の能力の両者の結果であり，その数字のみを云々すべき性質のものではないことに留意している。

3　自己評価と課題

今年度は本研究科を閉じるために在籍学生の転研究科措置を実施し，受け入れ側のシステム情報工学研究科の協力もあって，混乱なく完了することができた。平成14年度末に実施した調査から，約６割の学生が平成15年度中に学位取得を目指していると把握していたが，結果的に学位授与が10件にとどまったことは遺憾である。移籍後の学生諸君がシステム情報工学研究科で滞りなく学位を取得できるように対処することが課題である。